

上海和食レストランでの石川フェア開催について

12月1日から2月28日までの3ヶ月間、オークラガーデンホテル上海の和食レストラン「山里」において、「石川フェア」が開催されています。このフェアでは、石川の地酒を提供するとともに、輪島塗や九谷焼といった伝統的工芸品等の展示販売を行っています。同ホテルは、上海の中心地・淮海中路に位置し、1926年に建設された歴史ある建物で、フランス租界時代の雰囲気を残す優雅な空間と中国伝統文化の調和を楽しむことができる施設として親しまれています。フェア期間中、石川の地酒を楽しめるほか、輪島塗や九谷焼、大樋焼など7社11商品の伝統的工芸品を展示販売しています。初日に訪れたお客様からは、輪島塗の椀を手に取りながら、「綺麗な色と上質なデザインがとても美しい。きめ細かい職人の拘りが伝わってくる」といった声が寄せられました。

また、フェアの前夜祭として、11月30日に同レストランで、「石川県酒salon」を開催しました。このイベントでは、店の常連客を招待し、地酒や能登産ワインのペアリングコースを提供するとともに、伝統的工芸品の展示販売や、地酒の紹介、石川県事務所から観光PR・食文化の紹介も行いました。地酒については、「上質な味わいだ」といった声のほか、「自宅で開くパーティーで使いたい」というお客様もいらっしやり、その場で、クリスマスパーティー用に酒とワインを1ケースずつ注文する場面も見られました。中国人は人的交流を大切にする傾向があり、知人等を招いたパーティーの頻度が高いので、こうした需要にアプローチしていくのも有効と感じました。さらにイベントでは、11月30日から適用となった日本人が中国へ渡航する際の短期滞在ビザの免除や上海小松便増便についても話題に上がり、「日本との交流が活発化することを期待する」「今度の休暇は石川県にも行ってみたい」といった声も聞かれました。

今回のフェアを主催した「山里」の料理長は、「石川の食文化は奥深く、また、多彩な伝統的工芸品が数多くあることを今回のイベントを通して再認識できた。お客様に、石川の魅力を酒とともに紹介していきたい」と話していました。今後もレストラン等との連携を通じて、県産品の販路開拓を図っていききたいと思います。

■蔦屋書店での伝統的工芸品の展示販売

12月2日から8日まで、上海市の「上生新所蔦屋書店」において「2024日本工芸品魅力展」が開催され、県事務所も出展しました。このイベントは、クレア北京事務所（一般財団法人自治体国際化協会）の初の試みで、石川県のほか、宮城県、福島県、神奈川県が参加しました。蔦屋書店は2020年に中国へ進出し、現在は上海の他に北京、重慶、深圳、成都、武漢など主要都市に店舗を展開しています。今回の上生新所店は、上海を代表する観光名所「コロンビアサークル」内にあり、歴史的な建築をリノベーションした高級感漂う空間が特徴です。

石川県からは、輪島塗、山中漆器、金箔など 16 商品を出品しました。週末には観光 PR や工芸のワークショップを実施する時間が設けられ、石川県事務所は水引体験として、基本的な「あわじ結び」のストラップ作りを体験していただきました。水引は、飛鳥時代に遣隋使を通して中国から伝わったとされ、中国にも「中国結び」と呼ばれる伝統文化があるため、来場者にとっては馴染みやすいものでした。参加者も初めは苦戦しながらも徐々に慣れていき、最後は自分でアレンジを加えたり、糸の本数を増やしたりと、独自のアレンジを加えて楽しんでいました。完成後はかばんやスマホケースに取り付ける方もいて、「今度は違う結びもやってみたい」「水引以外の体験もしてみたい」といった感想が聞かれました。

中国では気軽に工芸体験できる機会が少ないため、このような体験型イベントは大きな需要があると考えられます。今後もこのような取り組みを通じて、県産品の PR やインバウンド誘客に取り組んでいきたいと考えています。



石川県酒 salon の様子



オークラガーデンホテル上海での石川フェアにおける伝統的工芸品の展示販売



上生新所蔦屋書店のイベントでの水引ワークショップ